

青才 高志（あおさい たかし）

1. 学歴・学位

1972年 東京大学文学部卒

1978年 東京大学経済学研究科博士課程終了

1992年 経済学博士

2. 職歴・研究歴

1978年 信州大学経済学部専任講師

1980年 助教授

1991年 教授

1999・1989年 University of London 留学

2004・2005年度 東京大学経済大学院非常勤講師

3. 参加学会

経済理論学会，経済学史学会，日本流通学会

4. 学内研究活動

担当講義名（大学院は括弧書き）

資本主義経済の基礎理論[旧,経済原論]，経済史，現代経済の分析[共通教育]，
（グローバル化時代の地域社会Ⅰ）

5. 研究分野および研究テーマ

理論経済学

(1)資本主義経済における資本の競争機構の研究

(2)地代および地価の研究

(3)サーヴィス経済の研究

(4)マルクスの経済学体系の執筆プランの研究（『資本論』形成史研究を含む）

(5)信用理論の研究

(6) 株価および株式会社の研究

6. 研究活動

A. 研究業績

(著書)

- ・『利潤論の展開——概念と機構——』, 時潮社, i ~ xviii, 1 ~ 239 頁, (1990)

(論文) [最近五年間 + それ以前の代表的論文6点]

- ・[研究ノート] 「再生産表式論の諸問題」, 『信州大学経済学論集』第53号, 115-143 頁, (2005)
- ・「佗美原理論の射程」, 『情況』, 2005年7月号, 232-241頁
- ・「資金と資本(上)」, 『信州大学経済学論集』第51号, 89-101頁(2004)
- ・「株式資本論の再構築」, S G C I M E 編『資本主義の原理像の再構築』, 233-255頁, お茶の水書房, (2003)
- ・「岩田株式資本論の検討」, 『信州大学経済学論集』第48号, 67-79 頁, (2002)
- ・「書評: 服部文男・佐藤金三郎編『資本論体系 1 資本論体系の成立』」
『経済理論学会年報』39集, 221-224頁, (2002)
- ・「マルクスは『要綱』において平均価格＝価値と考えていたのか?」,
『信州大学経済学論集』第45号, 41~66頁, (2001)
- ・「生産価格の編入と＜資本一般＞の転回——大村泉氏の見解の検討を中心として——」
『信州大学経済学論集』, 第43号, 77 ~ 126 頁, (2000)
- ・「地代論の再構成(下)——独占地代と絶対地代——」, 『信州大学経済学論集』,
第40号, 1~46頁, (1998)
- ・「地代論の再構成(上)——絶対地代論を中心として——」, 『信州大学経済学論集』,
第31号, 13 ~ 57頁, (1993)
- ・「株式資本論について」, 山口重克編『市場システムの理論——市場と非市場——』,
御茶の水書房, 247~261 頁, (1992)
- ・『資本論』とプラン問題——『経済学批判』プランと「競争論」——
『経済学批判』第5号, 102 ~ 118 頁, (1978)

- ・「価値形成労働について――生産的労働とサービス――」
『経済評論』，第26巻第9号，128～145頁，(1977)

B.学会等を通じた研究活動

2004年～ 経済理論学会幹事

2004年～ 『季刊 経済理論』編集委員

4.社会・地域貢献

- ・長野県固定資産評価審議会委員(2005年～)